① アイデアの人
天野 萌さん

■ 申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

明治 23 年に創業した京都市中京区にある日本画材の専門店である「後素堂（こうそどう）」の一階にある画廊を新たにアートスペースとして企画運営するプロジェクトを 2013 年 3 月からスタートします。運営企画初期メンバーは、美術作家の天野萌、画家の高木智宏、建築家の岡山泰士の三名です。運営に関しては、企画に関わるアーティストからお金を取らないという考えをモットーとします。内容は、企画ベースのアートスペースとして、これから先のアートシーンの可能性を、これまでの貸しギャラリーとは違った運営方式を取ることなどで模索していきたいと考えています。今回はそのスペースでの最初の企画として、ハガキサイズの作品を作家に呼びかけ多数展示して実際に販売するグループ展を予定しています。

■ 助成金の具体的な使い方について記載してください：

スペースの運営や企画に関する予算はゼロからスタートします。その中で 3 月から随時、展覧会やイベントを行うことで長期的な運営を可能とする様な仕組みづくりを考えて行きます。助成金はその際の広告宣伝費（チラシ印刷代、デザイン費用）やスペースの改修・造作費用の一部として使用します。3 月の企画ではハガキ作品の送料としての切手代への使用も想定しています。

■ なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

アートやそれにまつわるスペースについて考える時に、観客が、その鑑賞の対価、もしくは文化支援という形でお金を支払い、循環する仕組みについて実践をしていきたいと考えています。今回の助成に関しては、プロジェクトへの賛同という形での最初の支援、一番大元となるベースの運営費として位置づけています。

■ 申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年 1 月～ 2 月　スペースの改修や造作について最低限可能な作業、3 月の展覧会に向けたハガキ作品の依頼、展覧会の広告宣伝（紙媒体、web）を開始します。

2013 年 3 月下旬　展覧会開催、会期中に有料イベントを行います。

2013 年 4 月～　随時個展などの企画展を行う。作家は京都や関西圏に絞らず幅広く企画をすることとします。

■ 備考：

日本画画材専門店 後素堂ウェブサイト　http://www6.ocn.ne.jp/~kousodou/

天野萌ウェブサイト　http://www.moeama.net/

② アイデアの人
O:NIKU Station さん

■ 申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

京都、大阪、神戸などのイベントやワークショップスペース、個人宅等で、食用動物、特に鶏の「と殺」ワークショップを行います。このワークショップでは一人でも多くの人が生きた鶏がおにくになる過程を見て、体験し、できれば技術的にも自分だけでも出来るようになることを目標とします。これまでプレビューとしてイベントなどで数回実験的に行ってきましたが、こどもから大人まで様々な反応がありました。例えば１羽目をと殺中に泣き叫んだ子がケロッと「二羽目はいつやるの！？」と聞いて来たり、「3000 円払ったらこの鶏殺すのやめてもらえますか？」と提案してきた子や、「改めて自分はベジタリアンでよかったと思いました」という女性がいたり。また、参加された方からおにくや食べ物の話が自然と出てきました。そういった話も皆で共有し「食べる」というあまりにも日常的で当たり前になっている行為について、再度話し合う機会になれば、と思います。

■ 助成金の具体的な使い方について記載してください：

既にいくつかの必要物品の用意や、参加者がけがをした場合に備えた保険の契約は済んでいますが毎回の鶏の仕入れ、交通費（ガソリン、駐車場など）や追加の必要物品購入などの費用がかかってきますので、そういったものに使わせていただきたいと思います。また、同じ様な活動を行いたい人へのサポート（研修や必要物品の購入）ということも考えています。

■ なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

言うまでもなく、食べ物は私たちの体、エネルギーになります。そういう意味では「食べ物＝私たち自身である」とも言えます。が、これまでの日本の社会ではなぜか、食べ物がどこでどう生産され、どのように運ばれてきたかというプロセスは、軽視されてきました。特におにくに関しては、隠されてきた、とも言えるぐらい、不透明なのが現状です。街に出れば至る所に焼き鳥屋さんがあり、スーパーなどどこでも鶏肉は買えますが、「と殺」の現場を目にすることはまずありませんし、そもそも生きた鶏を見かけること自体、ありません。食べ物について無知である、ということはその食べ物で出来上がっている自分自身について無知であり、逆に食べ物に関してよりよく知ることは自分自身をよりよく知ることになるはずです。本来であれば例えば学校教育の中で「と殺」をもっと行っても良さそうなものですが、現時点でのシステム下では、なかなかできそうもありません。それならば、自分たちで、やるしかないのだと思います。

■ 申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年２月より月１回程度　固定の場所でのワークショップを行います。
参加者の中で、よりじっくり学びたい方には個別に対応していく予定です。
また希望に応じて可能な範囲で出張ワークショップも行いたいと考えています。

■ 備考：

O:NIKU Station http://oniku-station.tumblr.com/

③ アイデアの人
田中 和人さん

■ 申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

リレーショナルアートの新しい形を提案する。この企画は、トビリシ（グルジア）、京都、ローザンヌ（スイス）の三大陸にまたがって同時開催される、食を介したパフォーマンスアートである。
ロシア、トルコ、アゼルバイジャン、アルメニア、黒海に囲まれた、大昔からの東西南北の交易の地、グルジアは、ワイン発祥の地でもあります。メニューは、壮大な歴史、人種、宗教が交ざる大地が生んだワインと、グルジアを代表する食のヒンカリ。シングルの男女が集まり語り合うことでそこに即興的に生まれる関係性です。この助成金をもとに、参加費 2500 円の夕食会を京都で 3 回開き、各回男女 10 名を招待します。

■ 助成金の具体的な使い方について記載してください：

グルジアからの材料購入費および郵送費
グルジアワイン購入費（日本国内）
当日の手間賃
場所レンタル代

■ なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

新しいリレーショナルアートの可能性。リクイット・ティラバーニャは新しいアートの形として、リレーショナルアートを打ち出した。90 年代初頭から彼は、ギャラリーや美術館内でタイ料理を作り、観客に振る舞うというパフォーマンスで、観客とアーティストの新しい関係性、あるいは、観客同士の関係性を築こうとした。しかし、彼の作品が残したものは、本当に「関係性」だったのだろうか？参加者に残ったものは、アートに参加したという自己満足なのではないだろうか？
以来、リレーショナルアートは、ギャラリーや美術館という限られたアート界の中でしか成立しないというジレンマを抱え続けているように見える。
そこで、我々は食と恋愛を軸にした新しいリレーショナルアートを用いて、参加者間の関係性への介入を試みる。

■ 申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年 2 月 10 日　第一回グルジアワインの夕げ
2013 年 3 月 10 日　第二回グルジアワインの夕げ
2013 年 5 月？？日　第三回グルジアワインの夕げ　ゲラさん来日
2013 年 5 月～　隔週定期開催

④ アイデアの人
高橋 耕平さん

■ 申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

ビデオ作品のスクリーニングを中心に、パフォーマンス、ワークショップ、或は作品になる以前の制作ついて経験するアートイベントを開催します。時期はを 2013 年の 5 ～ 6 月を予定、週末を利用した短期間（3 日～ 9 日程度）を予定しています。参加作家は、京都をはじめ、首都圏、中部圏に拠点を持つ 30 代を中心とした現在注目される作家と交渉中です。内容はビデオスクリーニングを終日行い、毎夜（又は毎週末）異なったプログラムのライブ型のプログラムを行います。このイベントは京都で発表機会の少ない作品を披露し、幅広い方々に鑑賞してもらう事が主な目的ですが、同時にアートを使って考える場のモデルケースになれればと考えています。開催場所は HI-NEST BLDG を予定。またイベント終了後にドキュメントブックを制作予定です。

■ 助成金の具体的な使い方について記載してください：

イベントは入場料をとり、基本的な運営資金とします。助成金は運営資金の中でも重要な位置を占めるドキュメントブックに必要な印刷費、制作費の一部に使う予定です。ドキュメントブックは詳細にイベントの様子を記述するとともに、Sunday Brunch の助成についても詳しく記します。

■ なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

本イベントは、関西において展覧会というフォーマットでは取り上げられる機会の少ない作品を中心にプログラムします。その意味で貴重な機会になることは確かであるとともに、本イベントが、アートの（アーティストランイベントにおける）発表形態及び運営、参加方法の新たな可能性について考える、重要な役割を果たすと考えています。

Sunday Brunch の助成は、金銭的な補助だけを目的としているわけではありません。

本イベントに Sunday Brunch の名前をクレジットすることが重要です。つまり本イベントを使い、Sunday Brunch とのような助成プログラムのあり方を広めたいと考えています。

■ 申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年 1 月中旬　　プログラム出演者交渉

2013 年 2 月中旬　　プログラムの決定

2013 年 3 月中旬　　情報をまとめたチラシ、WEB を UP、広報開始

2013 年 5 ～ 6 月の開催を予定

⑤ アイデアの人
学生ヨル会議 さん

■ 申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

大学生同士がつながり合い、何かを生み出す新しい学びの場を提案します。国際協力、環境、教育、医療、経済など大学や学部を超えて議論すべきテーマをチャンネルとして設定。大学に働きかけたり、ネットを活用したりして、参加する学生を広く募ります。月替りで様々な分野で精力的に活動している学生がまず自分のテーマを設定し、それに対して参加者と討議していくといった仕組みです。イベントの内容は Ustream でライブ中継し、会場に来られなかった学生や学生以外の人にも見てもらいます。またツイッターなどを活用して、イベント開催後も学生の交流を広げていきます。学生たちの知恵と知識の融合を促して、イノベーションのきっかけをつくるのです。

■ 助成金の具体的な使い方について記載してください：

学生ヨル会議@環境 ch の開催を予定しています。そこで発生するイベント開催時の施設利用費、ゲストへの謝礼、パンフレット作成費、ワークショップ用の雑費などの資金をまかないたいです。

■ なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

大学生からイノベーションが起こる環境づくりをしていく必要があります。現在の大学では学生同士の意見交換や大学教授との共同プロジェクトを積極的に行なっていく意欲的な学生が少ないです。一方で、志向性を同じくした学生同士が集まることが出来れば新しいプロジェクトや新しい学びは必ず生まれると思っています。

■ 申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年 1 月 27 日　医療 ch を大阪本町駅周辺の Ustrem カフェ大阪で実施予定（テーマは医療×教育）

2013 年 2 月　環境 ch を実施予定（テーマは環境×食）

2013 年 3 月　広告 ch を実施予定（テーマは広告が与える社会への影響と日々を楽しくさせる効果）

2013 年 4 月　食 ch を実施予定（テーマは食から考える国際的な飢餓問題）

⑥ アイデアの人
キョートー・モナムール（仮題）さん

■申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

京都の町や人を知りたいための企画です。庶民の京暮らしを料理や買い物、散歩やその他の娯楽を通して、取材し、共に遊び、食べ、それを web サイトや zin の形にアウトプットするというもの。徐々に忘れられていく、庶民の生活や、記録に残されないさまざまな記憶をなるべく丁寧に掘り起こしていきます。たとえば京都では毎月１日には「にしんこぶ」を食べ、８日には「あらめとおあげのたいたん」を食べて、、、というように、そこで育った人でないと知ってるようで知らない習慣がたくさんあります。今でもこうした慣習は守られているのでしょうか？実際に守っている人のお話をお伺いしたり、料理を教わったりして、それらをきちんと記録に残していきたいと思います。きっと「にしんこぶ」ひとつをとってみても１０人１０色の作り方があることでしょう。目的は特徴的な行事を残すことというよりは、むしろそれをきっかけに話されたり、記憶が掘り起こされてきた、その人自身の固有の「普段話」を聞くことにあります。特に中心にしたいのは高齢者との対話ですが、どの世代でも記録されない貴重な時間はきっとたくさんあるはずです。どんな場所を毎日散歩しているか、どんなモノを毎日買うのか？など、日常の、記録にわざわざ残さないような数々の思いや行動をなるべく丁寧に掘り起こしていきたいと思います。そして、淡々と、でも、ちょっと素敵な記録集として残していきたいと考えています。

■助成金の具体的な使い方について記載してください：

記録を残す web サイト作成、デザイン代などに使います。センスあるデザイナーさんを募集します。また出資してくださった方をはじめとして、年に２回ほど、印刷物として楽しい読み物になる「会報」をつくる予定。

■なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

記録に残されないことに実は大切なことや、素敵なことが隠されているということ。これだけグローバル化や情報化社会が進むと、そうしたことをつい忘れがちになってしまいますが、そんなことをふと、思い起こせるような企画にしたいと思います。公式の記録に残されたものだけが、私たちの町や文化や歴史をつくっているわけではないこと。人それぞれの大切な時間や記憶に寄り添いたいと思います。そして大きな目的としては世代間の対話のきっかけをどこかに見つけられたらと思います。

■申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

２月～　取材開始と web サイトのデザイン会議
３月　インタビュー（年４回程度を予定）
４月　web サイトの完成とともに第１弾の取材内容を発表
その後３ヶ月ループで一つの企画を進行させる。
その他）秋にイベントを企画する予定
（インタビューに参加してくださった高齢者の方のアイデアをもとにした料理教室や、地域の方との対話の場になるような企画）
会報）A3 裏表一枚の読み物にもなる会報を年２回

⑦ アイデアの人
山田 愛 さん

■申請プロジェクトについて簡単に説明してください：

「京都美大生プロジェクト (仮)」
京都の美術・芸術系大学（京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都精華大学 etc）と京都を繋げる場所を作りたい。
まずは、京都に散らばった美術・芸術系大学の交流の場をつくり、若いクリエーターの意識や技術を“京都”を通してより力強いものへ育てる。
更には京都市が掲げる『世界的な文化芸術都市を創生することをめざす』（文化芸術にかかわる活動が盛んとなっている／日常の生活シーンのなかに文化芸術がとけこんでいる／文化芸術によって社会全体が活気づいている／文化財が社会全体で守られ、地域の活性化にもつながっている）という目標をより現実化させる為に、美大生が積極的に京都の事業に取り組めるようシステムを作りを行う。（京都市基本計画 平成 23 ～ 32 年度 参照）

■助成金の具体的な使い方について記載してください：

上記のとおり、美大生の交流スペースや、事業紹介の広告にかかる費用が必要となってきます。京都の大学を統括することや、システム運営など、先々の事を考えるとかかる費用や問題点もあらゆるものが出てくると予想されます。まずは組織作りのきっかけともなる場づくり。それらにかかる費用に使わせていただきたいです。

■なぜこのプロジェクトが助成される必要があるのか、あなたが考える申請プロジェクトの重要性について記載してください：

私自身、美術・芸術系大学（京都精華大学）に通っていて、危機感を感じています。素晴らしい感性や創造力、技術力がある学生が多いのに関わらず、あまりに内に籠ってしまいがちな傾向にあるように思えます。若いクリエーターたちは、もっと作品を見せる喜びや伝える努力をするべきだと感じます。また、自分の世界観だけでなく、同世代のクリエーターとの交流や、他分野との事業に取り組むことで表現の幅や可能性を広げることに繋がります。
もちろん、美大生だけでなく、京都市にとってもメリットがあります。プロジェクト説明にも記載しましたが、京都市が掲げる「京都市基本計画」で『世界的な文化芸術都市を創生することをめざす』とあります。これらを実現する為には、新しい京都を作って行く、担い手が必要となってきます。京都には美術や芸術を学ぶ若者が多くいるのに、大学卒業後も京都に残り制作する者は少なく、京都も芸術家も育っていきません。今こそ、美大生と京都を強く結びつける事業が必要性を感じます。

■申請プロジェクトの進行スケジュールを書いてください：

2013 年 2 月～ 3 月：大学長期休暇を利用し、企画を具体化。各大学に話を持ち込む。
4 月：第一回美大生ミーティング実施予定
以降、随時企画・運営を進める